

St. Luke's International University Repository

保健活動の表出

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平野, かよ子, Hirano, Kayoko メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.34414/00014946 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



保健活動の表出

第9回聖路加看護学会学術大会会長

平野 かよ子¹⁾

はじめに

今学会のメインテーマは、「実践の智を築く」とし、保健活動がどのようなものであるか実践の智をいかして表すことに挑戦してみたい。まず私の生い立ちに触れたい。私が生まれ育ったところは海岸があり、雑木林や杉林の小高い山に囲まれたところであった。林のなかを歩いていて見た木漏れ陽や、林のなかから見上げる青空を見ている私は林と一体であって、自分が周囲とつながったものと感じることは大変心地よく、「つながったものはつながったままの状態が本来のあり様」という原体験がある。

1. 保健活動の独自性

私が地元を離れ看護で学んだ人の理解、患者の理解は、身体的、精神的、社会的側面からの把握であった。これは人を総合的に把握するために必要とも思いつつ、心のどこかで、「どうして身体、精神、社会の部分に分けるのだろう。実際に生きている人は、周りにつながり、『全体としてある』のに」との思いがあった。臨床看護を経験した後の地域での保健師としての経験から、「保健」と「臨床看護」との違いとして、「保健は人々の暮らしのなかに入れてもらい地域に根を張ってする」ものであり、「臨床看護は治療環境のなかで患者さんを連れてきてする」ものであると実感した。この違いが保健と看護の専門性の根幹を成すと思う。

1) 保健活動の特徴

保健が対象とする方々すなわち住民は、地域で暮らせる程度の健康状態であるが、そのなかで抱える問題は表1に示すような基本的な問題である。保健師が相談されることの多くは表2に示すようなことである。生活習慣病を予防するための暮らし方や育児方法、介護方法など対処方法についての相談もあるが、多くは行き場がない、孤立しているなど、自分と周囲との間に起きる問題が多い。また、本人は支援を受ける気がなく困るといった当事者以外の相談など、周囲の人々が問題とする相談もある。

保健の機能を発揮する領域は、図1のような直接的な

支援の領域、仲間づくり・ネットワークづくりの領域、地域管理・地域開発の領域、そして健康危機管理の領域の4つの領域がある。

保健活動のキーワードは、「生活」「地域」「みんなで」などである。生活は寝ること、食べること、清潔に過ごすことなど基本的で日常的なことである。一日にすることを考えると、昨日何をしていたのか、あまり記憶に残っていない、印象の薄いものでもある。生活は人の身体のような「形があるのもの」ではない。

2) 日常性をもつ力

保健師は、地域で人々の日常生活のなかで迎え入れられて活動することで、保健師も日常性へ引きずりこまれ、保健師は「地域に根を張り」や「保健師も思いを語る」などということになる。日常生活を対象とし、日常生活の場で活動することは、「自分が意識する主体であると自覚し、対象や環境を自分とは異なる者と分離する以前の状態」、言い換えるなら対象化しない、できない状態で活動することといえる。無意識的、あるいは渦中にあり、保健師も日常生活の状況を成すものとなるといえる。このことは言い換えるならば、さまざまなことが関連していることを、分断しないで、まるごとそのまま扱う、扱わざるをえない状況におかれるということである。

表1 保健活動の課題

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・避けられる病気にかからない ・早死にしない ・治療が受けられる ・栄養がとれる ・文字が読める ・会いたいと思う人に会える ・地域の生活で何かしらの役割を担う |
|--|

表2 地域での生活上の問題

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・移動できない ・行き場がない ・関心(配慮)が向けられない ・孤立する ・排除される ・尊厳が保たれない、自由がない <p>(対処の仕方が学べない、住むところがない、食事ができない)</p> |
|---|

1) 国立保健医療科学院公衆衛生看護部

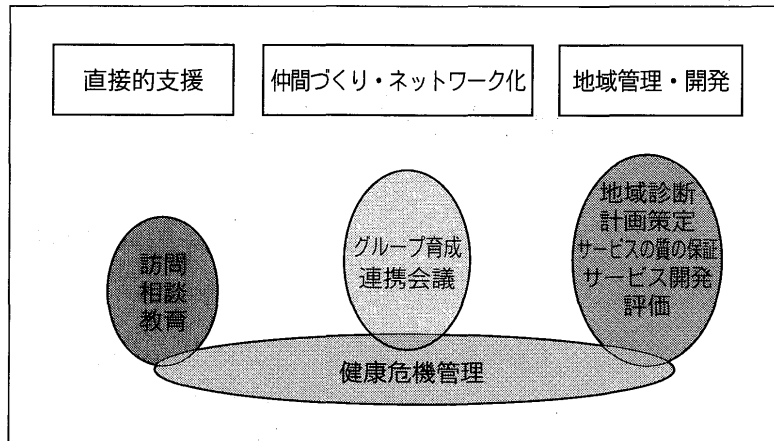


図1 機能を発揮する領域

また、「地域・コミュニティ」は、さまざまな人や環境から成り立つが、それは人々や環境の単なる足し算で成るものではない。それらの全体が織り成す固有な「地域」である。保健師はそのなかで活動し、周囲の世界である地域と一体となって活動する。

また、このような状態に保健師がおかれると、保健師自身が能動的に把握すると同時に、必ずしも能動的ではなく、状況がそれとして「立ち現れてくること」をただ受け止める、向こうから「こうなのよ」と言うてくることをつかまされる、と表現したい状況におかれる。これらは哲学の現象学的な表現では「間主観性」、認知科学でいう「アフォーダンス」に近いことと思う。このように保健師は生活に絡め取られ、生活者の視点、立場での体験を基盤とする。

3) 生活者の知

保健師は地域で生活する人々のもつ智恵と付き合いをえなない。つまり直接的な体験を重視すること、経験すること、実感すること、言い換えるなら自他の区別を意識しない状況、つまり間主観的な経験や直感的な経験知を尊重することである。これは日本にある知的伝統、主体と客体とを分離させないで、その場に浸かり身をもってつかむしかないとと思う。これに比して専門家の知は、合理的な思索の重視、基本原則、理論の尊重、系統的・論理的などで客観的な理性知・形式知、いわゆる近代科学が価値をおく知である。

2. 保健活動の実践の智

私が申し上げたいことは、保健師は専門職として専門家の知とともに生活者の知をより併せ持つ者だということである。その両者を併せもつことが実践の学としての「智」ではないだろうか。

保健活動の実践のなかから表わされる保健の独自性として、以下のような表現がある。

1) 保健活動のねらい

保健活動あるいは公衆衛生活動の目的は、次のように表現されている。「誰もが地域で安心して暮らし、暮ら

しやすくなるため」「人が人とつながって生きていけるようにするため」「24時間私たちがかかわれるわけではない。それぞれの人が自律して暮らせることで、そのためにはもつ力は引き出し、さらに力をつけてもらうため」「『健康って大事だね』という気持ちを多くの人々ともち、みんなで地域を変えていくため」などである。これはWHOの提唱するヘルスプロモーション、公衆衛生が目標とする“地域全体の健康の向上”であるが、実践の智としては上記のように表現される。

2) 保健活動固有の問題の理解と認識の方法

保健師が活動を語るなかで、保健活動固有の問題の理解と認識の方法があることに気づかされる。「地域全体を視野に入れて」「今の生活だけでなく、これまでの生活とこれからの生活を時間軸で捉え、生活の全体を捉えて」「地域で生活する人のもつ枠組みに沿い、語られることの流れ（文脈）を大事にして」「その人が暮らす場に身をおき、保健師自身をその場になじませて」などである。これらは全体、文脈、共にある場を尊重した理解と認識である。

3) 活動の展開方法

保健師は個別的な相談や家庭訪問、集団を対象とした健康教育、地域の関係者とのネットワークづくりなどさまざまな活動を行うが、それらの活動をバラバラに行うのではなく、連動させ地域が変わっていくようにする。それについては、「同時に個人にも家族にもかかわり、また、個人から家族、地域へと広げる」「地域の人々の見方や関心が変わり、それが個人、家族へ返ってくるようにかかわる」などと表現される（図2）。それぞれをつなげ「全体としての活動」とするわけである。

また、ひとつの問題や気がかりを多くの人と共有し、住民や関係者などみんなで解決する活動へ発展した活動事例からは、図3に示したような働きかけのステップを踏んでいた。一人の保健師のつぶやきを、身近な職場、組織のなかでの話し合いの「場」と、住民や関係者と共有する場とも連動させ、活動を展開させていることがうかがえる。

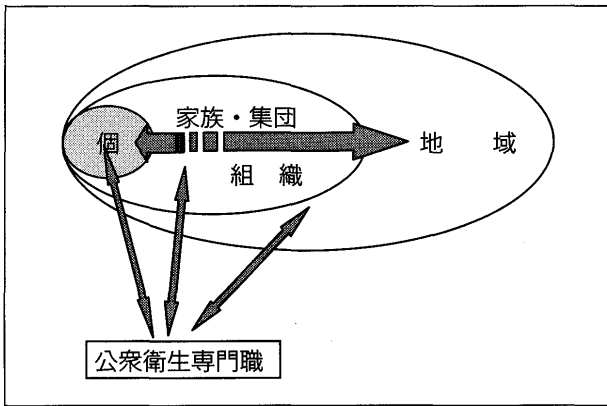


図2 個から地域へ連動・統合を図る複眼的展開過程
 (出典：平野かよ子編，地域特性に応じた保健活動－地域診断から活動計画・評価への協働した取り組み，147，ライフ・サイエンス・センター，2004)

まとめ

保健活動を担う保健師は，人々の生活の場で活動するという特性から，「よく観察する」など状況を対象化して把握することも重要である。しかし，これらの客観的な知や理論的な知と同時に，生活の場に根を張り，その場に身をなじませ，一生活者としてその場にあり，間主観的につかまされた体験的な知を洗練させ，体験的な知と理論的な知を併せた「実践学としての“智”」を築いていける特性を強くもつ者であると思う。今後も実践者とともに実践の智を築き，保健活動の新たな智の体系を整理していきたい。

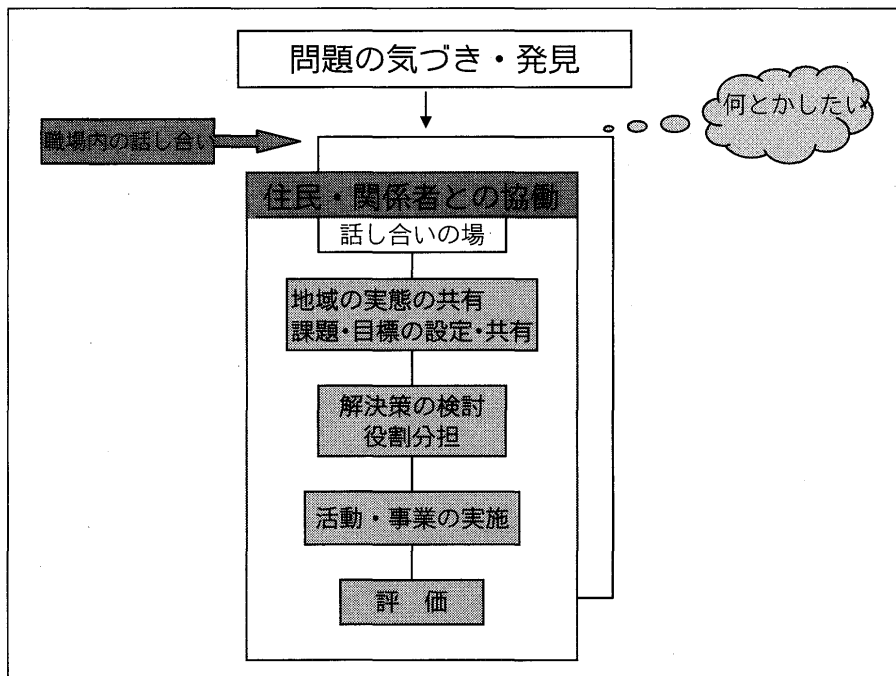


図3 組織的・協働型の活動展開過程
 (出典：平野かよ子編，最新保健学講座2，地域看護学総論②，152，メヂカルフレンド社，2004)